

令和5年度 バウム 事業報告書

1 総括

令和5年度もこれ迄の方針を継続し、利用者一人ひとりの自己肯定感を大切にしながら、福祉就労と一般就労準備支援の充実に取り組んできた。2年度下半期以降この方針を掲げてきたが、全般的に利用者の心情面、行動面は安定化傾向にあるように感じられるとともに、就労移行支援の利用や施設外実習への参加を希望する者も増え、就労への意識の向上も見られている。新型コロナウイルスについては5類移行に伴い、利用者の心理面での影響緒だいが薄れたように感じるが、マスク着用、手洗い、消毒、換気等の基本的な感染対策は継続し、事業所内での感染拡大は起きなかった。作業の安定供給、工賃水準の維持、職員のスキルアップ等のその他の重要な課題においても、概ね計画通り実行できており、全般的に安定した事業が行えている。

2 事業概要

1) 施設名	バウム
2) 事業種別	就労継続支援B型
3) 所在地	東京都小平市学園西町三丁目24番18号
4) 経営主体	社会福祉法人 未来
5) 利用定員	20名
6) 利用現員	26名（令和6年3月31日現在）
7) 法人認可年月日	平成14年12月11日
8) 事業開始年月日	平成23年 4月 1日
9) 職員	管理者 1名
	サービス管理責任者 1名
	生活支援員 2名（常勤換算 1.8）
	職業指導員 3名（常勤換算 1.9）
	目標工賃達成指導員 1名（常勤換算 1.0）

3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現の支援
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
- 3) 安心と希望の持てる生活

4 基本方針

- 1) 福祉就労の充実を図り、作業を通して、生活能力、就業能力、社会性の向上等基本的事項の支援を行う。
- 2) 一般就労に必要な生活リズムの構築、生活能力、社会性、就業能力の向上等基本的事項の支援を行う。

5 利用者の受け入れ基準

- 1) 作業や訓練等に対して意欲的である。
- 2) 自力での通所ができる。（公共交通機関の利用が可能である。）
- 3) 反社会的、非社会的行動がない。
- 4) 衛生管理ができる。

5) 身辺自立している。

6 実施事業（活動内容）

1) 作業

- (1) ダイレクトメール作業
- (2) 清掃作業（公園清掃、アパート清掃）
- (3) 資源回収作業
- (4) その他受注作業

2) 行事

- 4月 マジックショー観覧
- 10月 一泊旅行（栃木県・茨城県）
- 12月 運動会

7 日 課

- 8：45 体操・朝礼
- 9：00 作業
- 10：00 休憩
- 10：05 作業
- 11：00 休憩
- 11：05 作業
- 12：00 昼食・休憩
- 13：00 作業
- 14：00 休憩
- 14：05 作業
- 15：00 休憩
- 15：05 作業
- 16：00 休憩
- 16：05 作業・清掃
- 16：55 片づけ・終礼
- 17：00 退勤

※ 毎週水曜日は16：00で終了（事業所別職員会議の為）

※ 毎月第2火曜日は12：00で終了（合同職員会議の為）

8 重点課題・目標

1) 活動

(1) 利用者一人ひとりにあった福祉就労を通じての社会参加の促進

① 通所の安定化

面談等により、精神の安定を図り、安定した通所により生活リズムの構築を支援する。

【成果と課題】

日常の活動の中で、必要に応じて面談を行い、精神的に不安定になった際は話を聴く、助言を行うなど個々の利用者の状況に合わせた対応を行った。また、服薬の確認、気持ちの波の変化のデータ集積による傾向の分析なども必要に応じて実施した。通所率は73%で、多くの利用者が概ね安定して通所することが出来たが、自宅療養で長期休みの利用者1名（令和3年度から）、入院による長期休みの利用者1名（昨年度から）など、通所が安定していない利用者も20%程度あった。自宅療養中の利用者とは定期的に連絡をとり、月1回程度の通所を促すこと

によって、9月から12月の間は概ね月1回程度通所できた。入院中の利用者からは定期的な状況報告の連絡が来ている。その他、通所が安定せず3月末で利用終了となった利用者が1名いた。

② やりがいを感じる作業の実施

作業等を通じて集中力や持続力を身につけるとともに、自己肯定感を得られるように支援する。

(達成感、仲間意識や帰属意識の醸成、居場所としての役割、責任感の醸成など)

【成果と課題】

全般的には日々の作業の継続により集中力や持続力は身につけており、概ね安定して作業が行えているが、周期的に気持ちが不安定になることや、体調の悪化により、意欲や集中力が低下しがちな利用者も少なくない。その都度話を聞くことや、静養することで対応し、個々の状況に応じて作業が継続できた。また、施設外実習には多くの利用者が意欲を示しており、計19名延べ67名の利用者が参加した。

作業開始、休憩の号令係を多くの利用者が行っているほか、令和3年度から行っていた利用者による朝礼の進行を昼礼、終礼にも広げ、現在5名の利用者が交代で行った。人前で話す良い機会となっており、意欲の向上にもつながっていると感じる。

③ 社会人、職業人としての成長の支援

作業や活動を通じて、社会性、協調性、ルールの順守等の必要性を伝えていく。

精神的不安定さや行動特性により、大きな声や衝動的な行動、多動などが見られる場面もあるが、お互いの特性理解や職員への相談により、利用者間のトラブルは令和3年度以降徐々に減少し、4年度以降はその状態を保っている。また、トラブルがあった際はすぐに職員に相談する利用者も増え、早期解決が概ねできている。

④ 工賃

作業の安定供給、新規作業の開拓等により目標工賃を以下のように設定する。

【成果と課題】

東京都福祉保健局が始めた障害者施設生産活動応援センターに登録し、都内の企業から作業委託希望情報を専用ウェブサイトから把握し、新規作業の開拓を行った。これにより、11月に清掃作業を一件受託できた。定期的な作業受託には至っていないが、今後も作業の活性化に活用していきたい。また、商品の梱包作業を試験的に実施したが、対費用効果が低いのと、作業難度が高く利用者の参加が難しかったことにより3か月で終了した。その他、12月からは新規の包装作業を受注したが、発注元から作業の質や速度に高評価を得て、定期的な受注につながった。その他DM、清掃等の既存作業は概ね安定して実施でき、工賃は下表のようになった。

	令和4年度 実績	令和5年度 目標	令和5年度 実績	令和5年度 実績 (東京都計算方法)
時給	228円	230円	228円	
日給	1,284円	1,250円	1,291円	
月給 (東京都 計算方法)	21,993円 (23,793円)	21,100円	21,663円	26,138円
最高月給	42,050円	42,100円	32,700円	32,700円

- (2) 一般就労へ向けた就労移行支援事業の利用支援
一般就労を希望する利用者に対し、就労移行支援事業所と連携のうえ、就業能力の評価を行うと共に、移行支援事業の体験実習などを通じて、就労移行支援事業所の利用に向けた支援を行う。

【成果と課題】

令和5年4月に1名、9月に1名、令和6年の1月に1名で計3名が就労移行支援事業所の利用を開始した。その他、面談等から就労への意識の向上が見られる利用者が増えている。

- (3) 新型コロナウイルス感染症などへの感染症対策を徹底する。
基本的な感染対策の継続の他、法人内他の事業所と緊急時の作業の相互補完の取り決め等について検討を行う。

【成果と課題】

コロナウイルス感染症は5類となったが、手洗い、消毒、換気、検温、マスクの着用など基本的な感染対策は継続し、事業所内での感染拡大は起きていない。6月と11月に希望する利用者、職員に対して新型コロナウイルスのワクチン接種、11月にインフルエンザワクチン接種を実施した。

2) 人材育成

- (1) 職員の連携強化（情報共有・相互補完など）
(2) 中核職員の育成
①利用者支援スキルの向上
②事業管理に必要な事務の知識向上

【成果と課題】

- (1) 職員の情報共有は概ねスムーズに行われており、連携協働体制はよく取れているが、事業管理において自分の担当以外への関心の薄さがやや課題である。
(2) 日々のミーティングでの意見交換や現場の支援を通じての指導、また個別支援計画の評価や見直しの素案作成を行うことで、支援方針の統一が図られているほか、利用者の状況分析や課題整理の力に向上がみられる。今後、課題解決に向けた提案力の向上が課題といえる。

3) 経営管理

- (1) 訓練等給付費の安定確保
①1日平均利用者20人を目標とする。
(令和4年度実績—平均利用者20.3人。26人在籍、通所率75.9%)
②利用者確保のため、他事業所、就労支援センター及び特別支援学校などからの実習を積極的に受け入れ、利用につながるよう働きかけを行う。
③就労移行の期限超過の利用者の受け入れを推進し、就労へも再チャレンジを支援すると共に、利用者の確保を図る。

【成果と課題】

- ① 1日平均利用者数は19.2人（26名在籍、通所率72.7%）となり、目標に達せず、昨年度の実績も1.1人下回った。利用実績の減少により給付費収入は約4,080万円で昨年度の4,310万円と比較し230万円減額となった。
② <令和5年度実績>
見学者 10名
内実習者 5名
実習日数 39日
内利用契約者 3名

③ 就労移行支援事業の期限超過者からの利用相談はなかった。

(2) コスト削減

節電節水に取り組む他、無駄な支出を抑え、コスト削減を図る。

【成果と課題】

使用していない場所の電気やエアコンの消し忘れ等は徹底に至っていない。また、備品購入に伺い書を使用することで無駄な支出は抑えられた。

(3) 計画的な予算執行

月次試算分析を丁寧に行い経営状態の把握に努める。

【成果と課題】

月次試算の分析を丁寧を実施し、計画的に予算の執行ができた。

(4) 経営的視点の共有

毎月の職員会議で月次試算報告を行うことで、事業所の財務状況について職員の理解を深め、経営的視点の共有を図る。

【成果と課題】

計画通り報告を行い、大まかな経営状態は全体的に把握できている。

9 その他の成果と課題

1) 昨年度迄コロナウィルス感染症拡大のために休止していた利用者健康診断を8月にあきる台病院の検診車にて実施した。

10 事故等報告

1) 11月 職場体験で受け入れていた女子中学生2名の身体を男性利用者が触るということが起きた。職員の見守りが無い時であり、当該生徒から在籍する中学校への報告で発覚した。中学校には謝罪のうえ再発防止（見守りと利用者への注意）の報告を行った。中学校からは当該生徒とその家族への謝罪は不要、生徒の心的ショックも回復したとの話があり、再発防止について改めて要請があった。

11 開所状況

1) 開所期間 自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日
2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間
(2) 開所時間 午前8時45分～午後5時
(3) 年間延開所日数 243日間 (前年度 243日)
(4) 平均活動時間 8時間15分

12 利用状況

1) 利用者延人数 4,668人 (前年度4,932人)
2) 1日平均利用人数 19.2人 (前年度20.3人)
3) 施設外就労等実人数 19人 (前年度18人)
4) 施設外就労等延人数 67人 (前年度92人)
5) 体験実習受入実人数 5人 (前年度8人)
6) 体験実習受入延人数 39人 (前年度31人)

7) 1日平均実習受入人数 0.16人(前年度0.13人)

1.3 利用者状況(令和6年3月31日現在)

1) 年齢

20歳未満	1名
20歳以上30歳未満	10名
30歳以上40歳未満	6名
40歳以上50歳未満	5名
50歳以上60歳未満	4名

2) 障害の状況

手帳不所持	1名
愛の手帳3度	5名
愛の手帳4度	8名(内精神手帳所持 1名)
身体障害者手帳1級	1名(内精神手帳所持 1名)
身体障害者手帳3級	3名
精神保健手帳2級	9名(内身障手帳所持 1名、愛の手帳所持 1名)
精神保健手帳3級	1名

1.4 環境の整備

定期的に室内清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。しかし、清掃時間以外の気づきや建物周辺の清掃についてはやや徹底さが欠けていた。

1.5 防災

災害時避難訓練(自衛消防訓練)を年2回実施した。